

エントリー名：光市立浅江中学校 中野 未千尋

学校名：光市立浅江中学校

活動名：共有で授業改革！働き方改革！～参観者が苦勞し授業者が得をする校内研修～

解決すべき課題：

① GIGA スクール構想で教員もタブレット端末を…どう活用すれば？

本校は積極的にタブレット端末を活用するように挑戦している。教員である私たちがタブレット端末を使いこなさなくては、宝の持ち腐れとなってしまう。

② 浅江中学校の仕事の光と影・・・アウトプットとインプットのバランス。

県内でも先進的なコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が連携・協働し、様々な面で功績を残している。しかしながら、教員はアウトプットの場面は多いものの、一方で教材研究など、より自分の知識を高めるといったインプットに時間が割けない現状がある。

③ 学校・地域連携カリキュラムを意識した授業づくりができていない。

めざす浅江っ子像を学校・家庭・地域をあげて協議を重ね、創り上げてきた。また、熟議等において、当事者でもある子供の意見を加え、カリキュラムの見直しも図ってきた。学校での様々な活動がこの目指す姿をゴールとして仕込まれている一方で、日々の授業を振り返ると、中々その姿にせまる授業づくりを意識しにくい現状がある。

④ 生徒はテストの記述問題において、自分の意見をうまく表現することが苦手。

学力の向上に向けてテストの分析を行なった結果、文章表現を苦手とする生徒が多いことが課題である。いかにして文章表現能力を高めるかが、本校生徒の喫緊の課題である。

目標・方針： **ビジョンを共有！参観者が苦勞し、授業者が得をする校内研修**

- その① タブレット端末の積極的な活用に向けた教員同士のミニ講座の開催。
- その② 効率よく授業づくりのヒントやアドバイスを授受できる ICT 機器の機能の活用。
- その③ 学校・地域連携カリキュラムを風景面にしないための授業づくり。
- その④ ユニット型研修を活かし、全教職員を 2 グループに分け、それぞれの文章表現力を高めるための具体的手立ての構築・実践・振り返り。

活動内容：

【本校 ICT 担当を講師としてタブレット端末の効果的な使い方講座の開催】（方針その①より）

誰もがタブレット端末を使いこなすために操作方法に始まりオススメの便利アプリの紹介に至るまでベテランから若手まで全ての教員が集って勉強した。
 →これでどの教員もタブレット端末を使った教育活動に挑戦する土台ができた！



【授業の指導案&記録シートの活用（タブレット端末の共有機能）】（方針その②より）

教員のタブレット端末の利用率の向上と同時進行で、**アプリの共有機能の活用に取り組んだ**。また、指導案の作成の簡素化にもつなげ、これらによってお互いの授業見学がより容易になり、若手がベテランの、ベテランが若手の授業づくりの視点を見ることが可能になった。特に、校長を始めとした管理職或いは事務職員や養護教諭が熱心に生徒の反応やよかった教師の働きかけを記入する（参観者が苦勞）ので、授業者のみならず、同時に参観している他の教員にとって、とても参考になる。（指導案&記録シートの資料は右側資料①）また、授業の見どころのみ参観してもらい、意見をもらうピンポイント指導案も導入するなど、シート自体もその都度アップデートしている。
 →ベテランの視点が若手に一気に共有される。また、授業後の有難いアドバイスも一瞬で受け取れる即時性の効果！

【指導案作成時に必ずめざす浅江っ子像を考える工夫】（方針その③より）
 上記の指導案&記録シートを作成する段階でめざす姿を必ず意識。（資料②）
 →日々の授業にも学校・地域連携カリキュラムが反映される！

実際に使用した指導案&記録シート（資料①）

このシートは参観者のタブレット端末に表示されており、浅江中教員であれば、どこでも見ることが可能。そして、**記入される内容はリアルタイムで更新されていく**。

授業者が記入するエリア
 （簡単に）学習内容を記入するだけにし、簡素化している。

資料②
 学校・地域連携カリキュラムより3つの「めざす浅江っ子像」のどれとつながるか。

参観者が記入するエリア
 生徒の様子や授業での気づきなどを書き込む。また、写真や動画を貼ることもでき、授業の最初と最後までも生徒がどう変容したかも記録することもできる。

参観者がコメントを残せる。

【毎日の振り返りで文章表現 or テスト問題を見据えた文章表現】（方針その④より）
 全教職員を2つのグループに分けたユニット型研修を進めており、各ユニットで生徒の文章記述能力の向上に努めている。ユニットAは「授業の振り返りの充実」を、ユニットBは「文章表現問題をテストに出題&それを見越した授業づくり」という方策を立てて実践中である。
 →ユニットごとに方策は違っても同じビジョンを共有して実践し、効果を検証！

取組の過程：

いかに効率よく仕事をするかなど、**働き方改革が迫られる一方、解決すべき課題は増える**現状。このような状況を打破すべく、ICTをうまく活用して校内の研修体制を整えられないか様々な教員と共に検討した。具体的には上記の活動内容の欄に記載している指導案&記録シートの活用がメインだが、コロナ禍でつながりが薄れる一方で、学校関係者との様々な共有（**ビジョン、方策、考え方など**）が大切であると改めて感じた。

活動の成果：今年度の校内研修について教職員にアンケートをとった結果を記載。

- ・参観する教職員によって授業記録が随時記入され、授業終了時には全体像やポイントが明確になっています。また、記録が積み重なっていくので実践事例集のようになっていくのも今後増える若手の人材育成資料となると思います。
- ・簡潔でわかりやすく、負担も少ないので大変良いと思います。
- ・大変有意義である。複数名が同時に記録することで、他者の授業を見ている視点をリアルタイムで知ることができるのが最大のメリット。

終わりに 課題を分析し、解決に向けて、全教職員が丸丸となって取り組んでいることこそが、多忙ながらも教職員の働きがいや明るい教員集団につながっている。そして、そのような教員の不断の努力が浅江中一人ひとりの生徒を主語にする学校教育を実現できると信じ、日々の実践に取り組んでいる。